

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金
(グリーンな栽培体系加速化事業)

コナジラミ防除マニュアル

令和8年3月 JA金沢市砂丘地集出荷場トマト部会

<コナジラミ>

- ・越冬は基本的に施設内。当産地は施設も多く越冬場所が多い
- ・抵抗性が付きやすいので、ローテーション散布が基本
- ・春先から徐々に増え、春作と秋作の切り替え時期(6月下旬～)爆発的に増える。

☆大前提としてハウスに入れない＋増やさない(初期対策)



トマトのすす症状



黄化葉巻病

対策①基礎の徹底

1. ハウス周辺やハウス内の除草
・・・越冬場所、生活場所を減らす
2. 残渣や病害株はハウス周辺に残さず、適切に処分
を行う（特に病害は次年度の感染源となる）

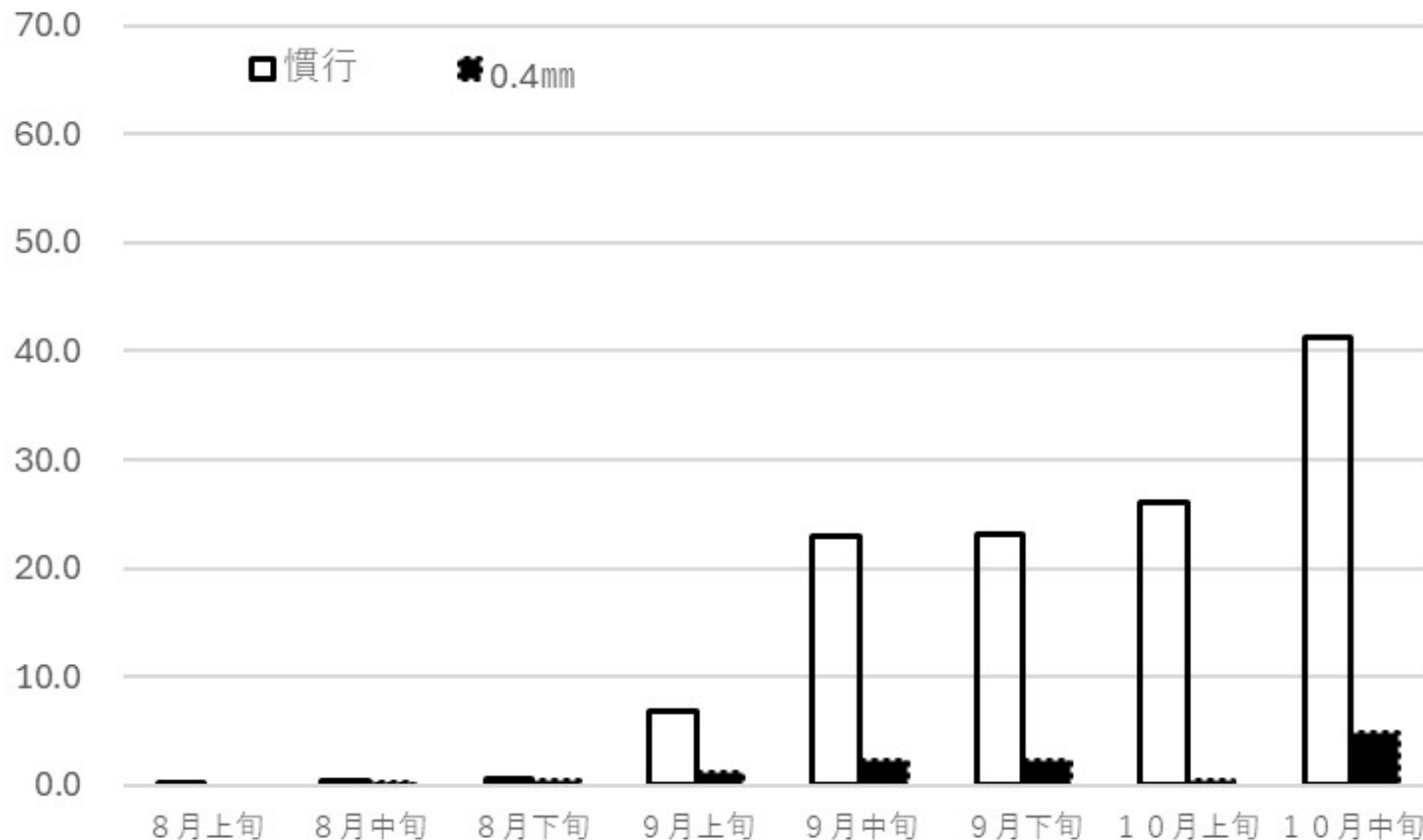


3. 前作から密度を低く保つ＋後作のことを考えて最後まで防除や片付け方法(蒸しこみ)を徹底
4. 高温期(40℃以上)に数日密閉することで死滅する。
温度が確保できる時期は、片付け時にハウスを密閉。
温度が確保できない時期は、植物が枯れてから2週間以上締め切り、コナジラミ類を餓死させる。
5. 金竜や黄色の粘着トラップを設置する
→早期発見のための目安にもなる
6. ハウスの出入りの際はブローワーや扇風機などを使用し、人を介して移すことを減らす
7. 生育期間中の摘葉や芽かき→住処をなくす
8. 抵抗性品種を活用する

対策②耕種的防除の併用

(1)0.4mm黑色防虫ネット

例)サンサンネットクロスブラック



クロスブラックと慣行防虫ネットでの捕殺効果の差(R7年度金沢市での調査)

(2)UVカットフィルム

例)花野果[®]蒼天UVロング

- ・アザミウマ&コナジラミ密度激減

△ミツバチを使用する場合は使えない

(3)高反射シート

例)虫フラッとシート

- ・害虫の「飛行錯乱」を誘発し、微小害虫(アザミウマ、コナジラミ等)のハウスへの侵入を抑制



(4) 気門封鎖剤の活用

例) エコピタ液剤

- ・ 気門封鎖剤が効果的なのは、発生初期
- ・ 害虫の気門が塞がれることにより呼吸が停止する。
- ・ 注意点: 気門封鎖剤は品目や使用方法によって薬害が発生する場合があるため、使用前に剤ごとの注意事項を確認

<参考>(1)~(4)を組み合わせた実証結果

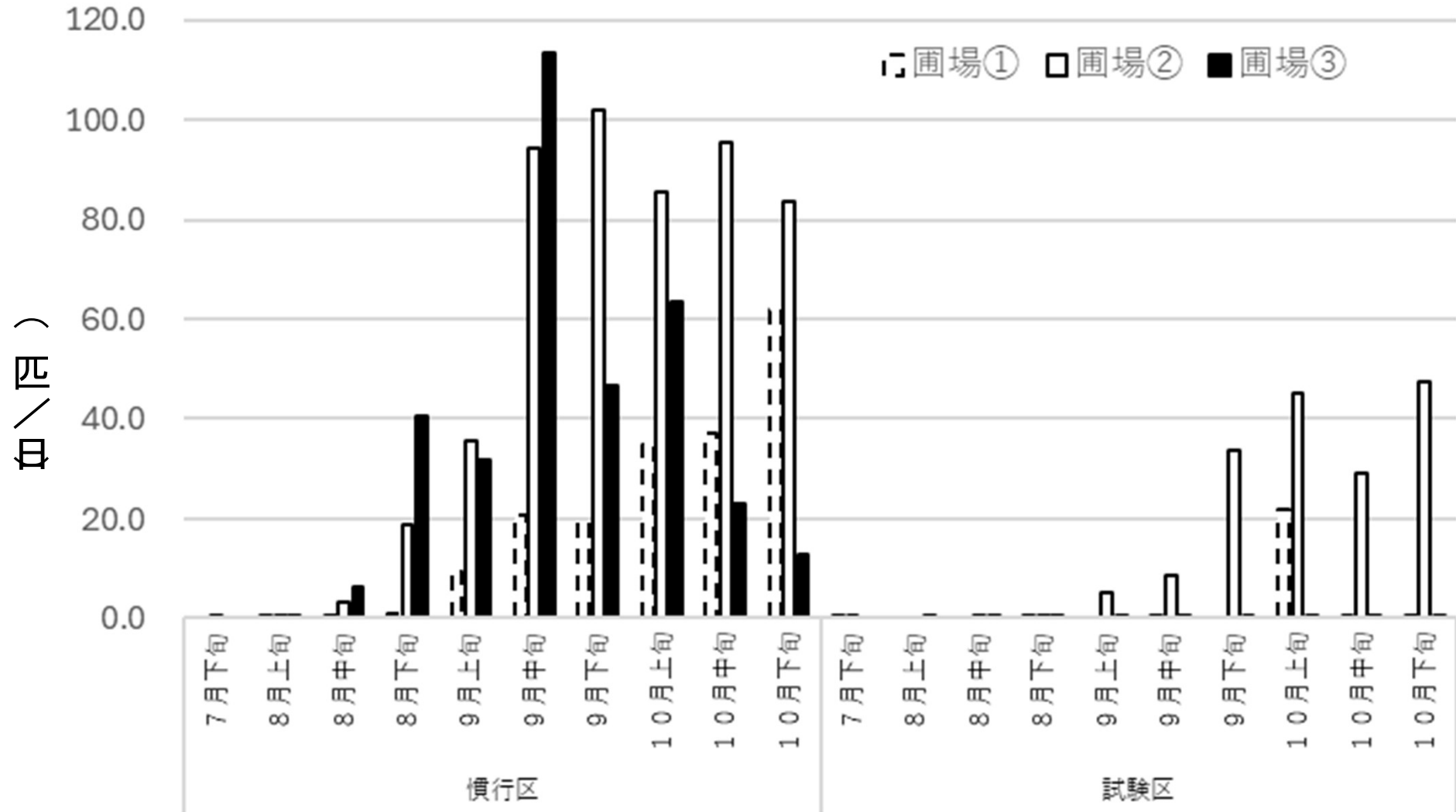


図1 防虫対策の違いによるコナジラミ、アザミウマの捕殺数の推移(R7年度調査)

試験区:UVカットフィルム+0.4mm黒防虫ネット+高反射シート

慣行区:1mmの防虫ネットのみ

※試験区、慣行区ともに気門封鎖剤を作付期間中に5~6回散布

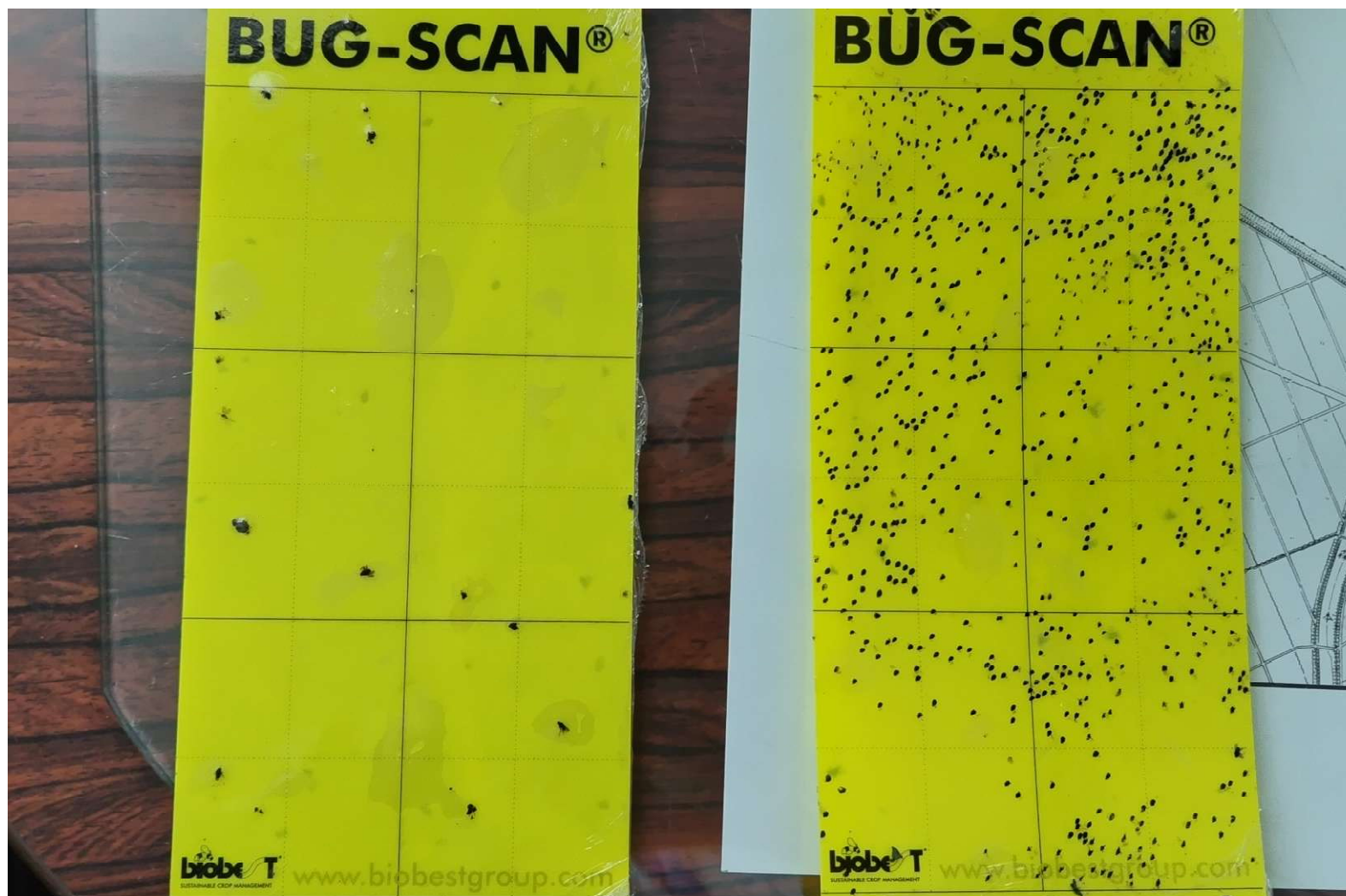
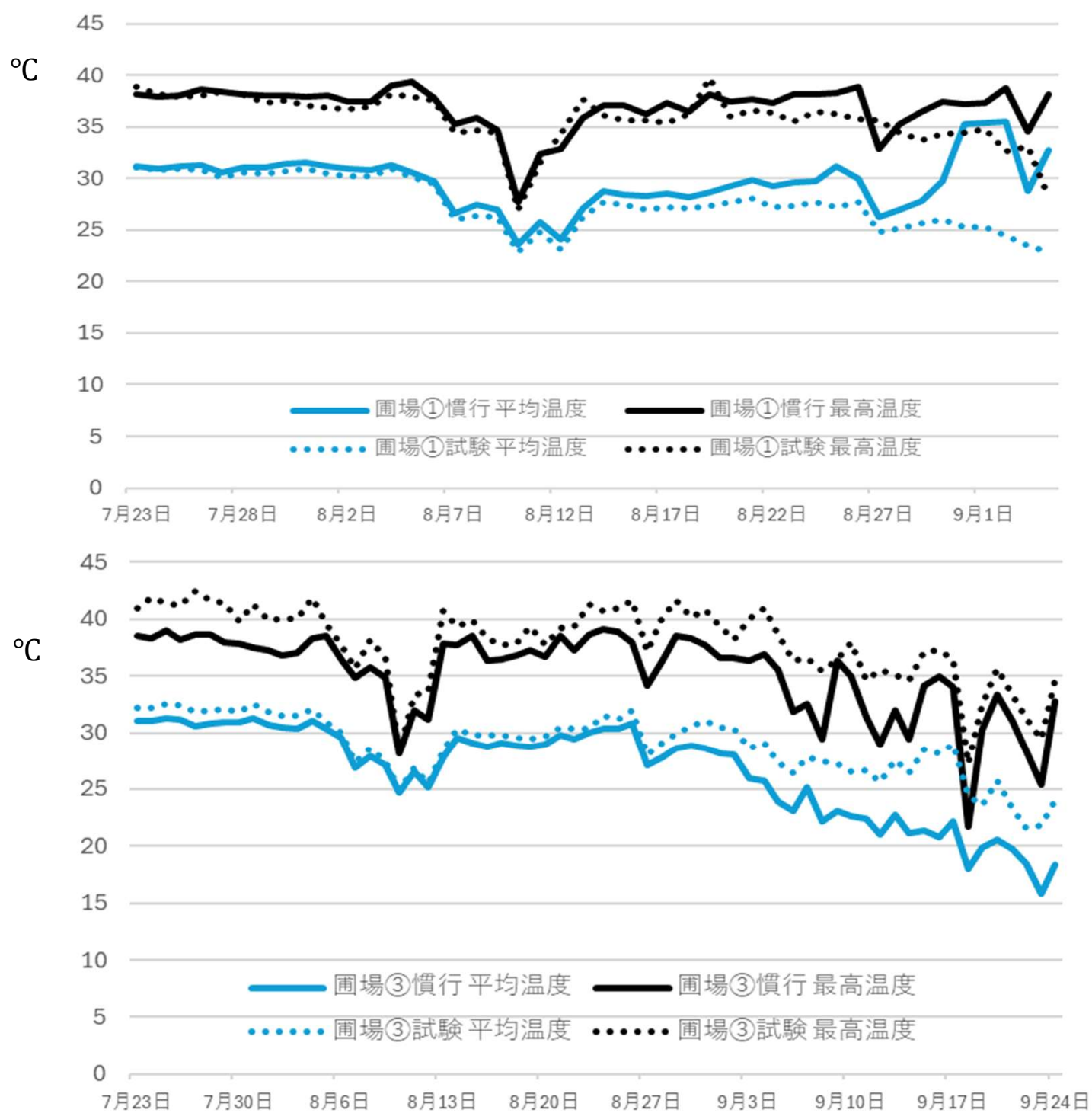


図2 捕殺トラップ(左:試験区、右:慣行区)



⇒圃場①で慣行区が
ハウス内温度が高い
圃場③では試験区で
ハウス内温度が高い
⇒圃場条件によって
ハウス内温度は異なる

図3 圃場①、③におけるハウス内温度の推移

対策③化学的防除の注意点

薬剤抵抗性がつきやすいため、ローテーション散布を実施

時期によっては燻煙剤などを活用することも効果的です

